

Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)による
介護負担評価:標準化による有用性の向上 (25-25)

主任研究者 荒井 由美子 国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長

研究要旨

主任研究者らが開発した Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)、及びその短縮版(J-ZBI_8)は、我が国において、最も頻用されている介護負担尺度である。本尺度の有用性を更に向上させるために、1) 家族介護者における抑うつ症状や虐待など(在宅介護に関するネガティブアウトカム)を生ずる介護負担の閾値(カットオフポイント)を明らかにすること、2) 介護負担得点の標準的な値を算出すること、及び3) 介護負担と認知症の背景疾患及び重症度との関連を明らかにすることを目的とした。

まず、介護保険制度下における居宅サービス利用者及び家族介護者に対して実施した調査をもとに、J-ZBI_8による大規模な介護負担評価を集積した家族介護者・介護負担大規模データベースを作成した(4,128名)。家族介護者の抑うつ症状のカットオフポイント算出に先立ち、本データベースを用いて、家族介護者の抑うつ症状の関連要因について検討した。

結果の一部を第16回国際老年精神医学会(The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA))にて発表し、最優秀発表賞(the Best Presentation Award)を受賞した(Arai Y, The 16th Congress of the International Psychogeriatric Association (IPA), Free Communication, 2013 October 4, Received the Best Presentation Award)。

また、家族介護者による虐待のカットオフポイント算出について、先行研究をもとに調査票を作成し、利用者・家族介護者150組程度のデータ収集を企図し、現在、関西と九州の訪問看護ステーションに調査の協力を依頼している。

さらに、介護負担と認知症の重症度との関連については、K大学医学部附属病院神経精神科の認知症専門外来を受診した初診患者のデータをもとに、鑑別疾患・重症度別のデータベースを作成した。694名のうち、アルツハイマー病(AD)523名、脳血管性認知症(VaD)70名、レビー小体型認知症(DLB)101名であり、Clinical Dementia Rating(CDR)とJ-ZBIとの関連についての検討を開始した。

主任研究者

荒井 由美子 国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部 部長

分担研究者

池田 学 熊本大学大学院生命科学研究部・神経精神医学分野 教授

鷺尾 昌一 聖マリア学院大学看護学部 教授

研究協力者

鈴木 隆雄 国立長寿医療研究センター 研究所長、老年学・社会科学
研究センター長

A. 研究目的

我が国の要介護高齢者は550万人に迫り、家族介護者は400万人を超え、今後も増加すると考えられる。介護が負担であると、家族介護者自身の身体的・精神的な健康を損ねることが明らかになっており、在宅介護を円滑に継続するために、介護負担の程度を客観的に把握することが重要である。

申請者らは、国際的に最も頻用されている Zarit 介護負担尺度 (ZBI) の日本語版 (J-ZBI) 及び、その短縮版 (J-ZBI_8) を作成し、それぞれの信頼性・妥当性を確認した (Arai et al, 1997; Kumamoto & Arai, 2004)。J-ZBI 及び J-ZBI_8 は、我が国における介護負担研究及び在宅介護現場において最も頻用され、申請者も、本尺度を用いて介護負担に関する諸要因を明らかにしてきた (Kumamoto & Arai, 2006; Arai et al, 2007; Arai & Zarit, 2011, Arai et al, in press)。

本尺度の直近の使用例としては、全国デイケア協会の「通所リハビリテーション居宅訪問実践ガイド (2013)」における家族アセスメントで J-ZBI_8 が用いられている。本尺度の有用性を更に向上させるために、

- 1) 家族介護者における抑うつ症状や虐待など (在宅介護に関するネガティブアウトカム) を生ずる介護負担の閾値 (カットオフポイント) を明らかにすること、
- 2) 介護負担得点の標準的な値を算出すること、及び
- 3) 介護負担と認知症の背景疾患及び重症度との関連を明らかにすること

を目的とした。

B. 研究方法

本研究課題は、以下の目標を設定する。

- 1) 在宅介護におけるネガティブアウトカムが生じる介護負担のカットオフポイントを明らかにする
- 2) 我が国の標準的な（平均的な）家族介護者の介護負担を明らかにする
- 3) 上記 1)2)に加え、介護負担と認知症の背景疾患及び重症度との関連を明らかにする

1) ネガティブアウトカムが生じる介護負担のカットオフポイントを明らかにする

（主任研究者：荒井 由美子、分担研究者：池田 学、鷲尾 昌一）

在宅介護におけるネガティブアウトカムとして、①家族介護者の抑うつ症状、②家族介護者による虐待的な行為、が生じる介護負担得点を検討する。

2) 我が国の標準的な（平均的な）介護負担を明らかにする

（主任研究者：荒井 由美子）

J-ZBI_8による大規模な介護負担評価データを集積し、①要介護者や介護者の条件別の介護負担の標準的（平均的）な得点の推定、及び②我が国の平均的な家族介護者の介護負担得点の推定を行い、J-ZBI_8の標準的な値を推定する。

3) 介護負担と認知症の背景疾患及び重症度との関連、介護負担の年代による変化を明らかにする

（分担研究者：池田 学）

家族介護者の介護負担に関し、認知症の背景疾患及び、その重症度による介護負担とその影響要因の違いを明らかにする。

（倫理面への配慮）

研究対象者には、研究計画を口頭及び書面にて説明し、研究参加の同意を得る。得られたデータを全てコード化し、本研究の目的以外には、使用しないことを遵守する。研究開始前に、研究担当者の所属機関において、倫理委員会に諮り、承認を得る予定である。

研究範囲が広範であるため、以下、分担研究ごとに、

A. 研究目的、B. 研究方法、C. 研究結果、D. 考察・結論
について、本年度の概要を報告する。

1. 居宅介護サービスを利用している要介護高齢者における家族介護者の抑うつ
症状：大規模データを用いた分析
(主任研究者：荒井 由美子)

A. 研究目的

本研究の最終目的は、Zarit 介護負担尺度日本語版(J-ZBI)や短縮版(J-ZBI_8)において家族介護者の抑うつ症状等に関するカットオフポイントを算出することである。本年度の研究の目的は、1)居宅サービスを利用している利用者の家族介護者の抑うつ症状の有病率を、代表性のある大規模集団において明らかにすること、及び、2)介護者の抑うつ症状と関連を示す要因を、代表性のある大規模集団において、明らかにすることの2点である。

B. 研究方法

T市(人口 417,400人)在住で、H23時点において、介護保険の居宅サービス給付を受けていた要介護高齢者(要介護1以上、要支援は含めない)及びその主たる家族介護者(主たる家族介護者7,013名)のうち、要介護者が入所・入院、介護者自身が病気、調査拒否、転居などしている者等、計1,075名を除外した。調査対象となった家族介護者5,938名に対し、自記式質問票による調査を行った(介護者調査票)。

C. 研究結果

今回の対象者の家族介護者のうち、男性1,068人(25.9%)、女性は3,030人(73.4%)であった。また、家族介護者の一日の介護時間は10.6時間(SD=5.1)であった。CES-Dの平均得点、14.6(SD=9.53)であった。家族介護者の抑うつ症状に関連していた要因は、介護時間が長いこと、利用者の認知症の程度が中程度であること、介護者自身の健康が優れていないこと等であった。

D. 考察と結論

今回のように代表性のある大規模集団において、関連性を確認した研究は、国内外を通じて殆どみられなかった。このような代表性のある集団に対して行った大規模調査で得られた知見を、今後、蓄積していくことが有意義と思われる

る。

E. 健康危険情報

特記すべきことなし

【協力者】

水野洋子、野口知里（国立長寿医療研究センター 長寿政策科学研究部）

2. 認知症における疾患別ならびに重症度別の介護負担に関する研究

（分担研究者：池田 学）

A. 研究目的

認知症を支える家族（主たる介護者）の介護負担は、介護者の抑うつ症状や生活の質低下などに関連し、認知症患者の早期施設入所につながる重要な要因である。これまでに家族の介護負担は認知症患者の行動心理症状（BPSD）や認知機能と関連することが報告されているが、介護負担と認知症の原因疾患、認知症重症度との関係について報告した研究は少ない。そのため、本研究では、認知症の原因疾患ごとに介護負担感を比較し、さらに、認知症重症度と介護負担感との関係を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

本研究は、2007年4月から2013年6月に熊本大学医学部附属病院神経精神科の認知症専門外来を受診した初診患者のうち、データに欠損のない患者694名を研究の対象とした。対象者の疾患は、アルツハイマー病が523名、脳血管性認知症が70名、レビー小体型認知症が101名であった。認知症重症度の評価にはMini-Mental State Examination (MMSE)、Clinical Dementia Rating (CDR)を用い、介護負担感の評価にはZarit Caregiver Burden Interview 日本語版 (J-ZBI)を使用した。

C. 研究結果

年齢と認知症の重症度を調整した共分散分析の結果、レビー小体型認知症の患者の家族は、アルツハイマー病の患者家族と比較して、統計的に有意に高い介護負担を抱えていることが明らかになった。さらにCDR重症度評価（認知症疑い、軽度、中等度、重度）において、中等度までは重症になるに従い介護負担感が有意に増加していたが、重度ではほぼ横ばいとなり、中等度と重度ではと

の間では統計的有意差はみられなかった。

D. 考察と結論

レビー小体型認知症の介護者は強い介護負担を感じていることが示唆された。また、認知症が中等度であっても重度と同程度に強い負担感を感じており、これらの家族に対する重点的な支援の必要性が示唆された。

E. 健康危険情報

特記すべきことなし

【協力者】

松下正輝，小山明日香，石川智久，橋本 衛（熊本大学大学院生命科学研究部
神経精神医学分野）

3. 在宅で要介護高齢者を介護する家族介護者の介護負担と不適切処遇 (分担研究者：鷺尾 昌一)

A. 研究目的

介護負担が高い家族介護者には介護放棄や虐待など不適切処遇が認められやすい。問題行動が多い要介護高齢者など家族介護者が思うに任せない状況では家族の介護負担が高く不適切処遇が起りやすいと考えられる。今回、我々は、不適切処遇（虐待や介護放棄など）が生じる介護負担のカットオフポイントを明らかにすることを目的に、在宅生活を送る要介護高齢者とその家族介護者を対象に調査を行った。

B. 研究方法

2013年9月から11月の間に九州地区2箇所と関西地区3箇所の訪問看護ステーションから訪問看護サービスの提供を受けている要介護高齢者とその家族介護者73組に対して、無記名のアンケート用紙を用いた調査を行った。

C. 研究結果

介護負担の高い介護者は低い介護者に比べ、体調を壊すことがある者の割合が高く、Zarit介護負担尺度の点数、CESDの点数が高かった。介護負担が低い介護者に介護されている要介護高齢者に比べ、介護負担の高い介護者に介護されている要介護高齢者には認知症がある者の割合が高かった。介護負担が高い

介護者は低い介護者に比べ、要介護高齢者から目が離せない時間（見守りの時間）が長かった。しかし、介護負担が高い群と低い群の間に不適切処遇を行ったことのある者の割合に差を認めなかった。

D. 考察と結論

今回の調査では介護負担が高い群と低い群の間に不適切処遇を行ったことのある者の割合に差を認めなかった。その理由としては、対象者数が少ないことその他、高い介護負担に苦しみながら在宅で介護をしなくとも、高齢者入所施設に入所させることが可能出るからではないかと考えられ、不適切処遇を経験する前に要介護高齢者を入所させ、在宅介護を中断している可能性も否定できない。さらに、対象者を増やして検討する必要がある、次年度以降も対象者を募集し、対象者を増やして検討する予定である。

E. 健康危険情報

特記すべきことなし

【協力者】

豊島泰子（四日市看護医療大学看護学部）

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Arai Y, Kumamoto K, Mizuno Y. Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan. *Aging Ment Health* (in press).
- 2) Arai Y. Japan Breaks with Long Family Caregiving Tradition: New Long-Term Care (LTC) Insurance Scheme. In: Duvvuru J, Kalavar JM, Khan AM, Liebig PS, editors. *Global ageing care concerns and special perspectives*. New delhi: Kanishka Publishers & Distributors, 2014: 38-45.
- 3) Arai Y. Challenges in disseminating the findings of psychosocial research conducted in a non-English speaking country. *Int Psychogeriatr* (in press).
- 4) Mizuno Y, Arai Y. Support measures to enhance motivation for older people with dementia: a nationwide survey of Japanese municipal governments. *IMJ* (in press).

- 5) Hasegawa N, Hashimoto M, Koyama A, Ishikawa T, Yatabe Y, Honda K, Yuuki S, Araki K, Ikeda M. Patient-related factors associated with depressive state in caregivers of patients with dementia. JAMDA (in press).
- 6) Ikeda M, Mori E, Kosaka K, Iseki E, Hashimoto M, Matsukawa N, Matsuo K, Nakagawa M, on behalf of the Donepezil-DLB Study Investigators. Long-term safety and efficacy of Donepezil in patients with dementia with Lewy Bodies: Results from a 52-week, open-label, multicenter extension study. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2013; 36(3-4): 229-241.
- 7) Adachi H, Ikeda M, Komori K, Shinagawa S, Toyota Y, Kashibayashi T, Ishikawa T, Tachibana N. Comparison of the utility of everyday memory test and the Alzheimer's Disease Assessment Scale-Cognitive part for evaluation of mild cognitive impairment and very mild Alzheimer's disease. *Psychiatry Clin Neurosci* 2013; 67(3): 148-153.
- 8) Ichimi N, Hashimoto M, Matsushita M, Yano H, Yatabe Y, Ikeda M. The relationship between primary progressive aphasia and neurodegenerative dementia. *East Asian Arch Psychiatry* 2013; 23(3): 120-125.
- 9) Yatabe Y, Hashimoto M, Kaneda K, Honda K, Ogawa Y, Yuuki S, Ikeda M. Efficacy of increasing donepezil in mild to moderate Alzheimer's disease patients who show a diminished response to 5 mg donepezil: a preliminary study. *Psychogeriatrics* 2013; 13(2): 88-93.
- 10) Hasegawa N, Hashimoto M, Yuuki S, Honda K, Yatabe Y, Araki K, Ikeda M. Prevalence of delirium among outpatients with dementia. *Int Psychogeriatr* 2013; 25(11): 1877-1883.
- 11) Honda K, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Yuki S, Ogawa Y, Matsuzaki S, Tsuyuguchi A, Tanaka H, Kashiwagi H, Hasegawa N, Ishikawa T, Ikeda M. The usefulness of monitoring sleep talking for the diagnosis of dementia with Lewy bodies. *Int Psychogeriatrics* 2013; 25: 851-858.
- 12) Washio M, Takeida K, Arai Y, Shang E, Oura A, Mori M. Depression among family caregivers of the frail elderly with visiting nursing services in the northernmost city of Japan. *IMJ* (in press).
- 13) Washio M, Arai Y, Mori M. Factors related to the depression among family caregivers of older people with disabilities who used home health care services in the metropolitan city of Hokkaido, Northern Japan. *IMJ* (in press).
- 14) Toyoshima Y, Washio M, Miyabayashi I, Haruna S, Arai Y. Depression among family caregivers of the psychiatric patients with visiting nursing services in Japan. *IMJ* (in press).

- 15) 荒井由美子. 精神障害の現状と分類. 鈴木庄亮・久道 茂, 監修. 辻一郎・小山 洋, 編. シンプル衛生公衆衛生学 2013. 東京: 南江堂, 2013: 313-325.
- 16) 荒井由美子, 新井明日奈, 水野洋子. 認知症高齢者と自動車運転—社会支援の観点から. 池田 学, 編. 脳とこころのプライマリケア 2 知能の衰え. 東京: シナジー, 2013: 150-159.
- 17) 荒井由美子, 水野洋子. 介護負担と介護者支援: 介護者への情報提供を中心に. 中島健二・天野直二・下濱 俊・富本秀和・三村 将, 編. 認知症ハンドブック. 東京: 医学書院, 2013: 427-433.
- 18) 鷺尾昌一, 小浜さつき, 日高艶子, 福寫由尚, 原田英治, 藤澤伸光. 高齢者の摂食・嚥下障害と在宅ケア. 臨牀と研究 2013; 90(4): 467-472.
- 19) 豊島泰子, 大坪昌喜, 鷺尾昌一. 精神障がい者を介護する家族に対する訪問看護師による支援内容の検討. 日本精神保健看護学会雑誌 2013; 22(1): 78-84.

2. 学会発表 (受賞など)

- 下記の口演にて、国際老年精神医学会より最優秀発表賞を受賞

Arai Y. Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan (Free Communication). The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 4), Seoul, Korea (Received the Award for the Best Presentation).

- 1) Arai Y. Psychosocial Research about mental health of older people in Japan: Challenges in disseminating findings (Symposium). The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA) (Invited lecture), 2013 October 1-4 (Presentation: October 2), Seoul, Korea.
- 2) Mizuno Y, Arai Y. Measures for enhancing the mobility of older people and people with dementia in Japan. The 16th Congress of International Psychogeriatric Association (IPA), 2013 October 1-4 (Presentation: October 2), Seoul, Korea.
- 3) Ikeda M. Symposium: Dementia care. Community outreach services for dementia: Basic requirements. 7th Congress of Asian Society Against Dementia, 2013 October 9-12, Cebu city, Philippines.

- 4) Ikeda M. Keynote address: Overview on the diagnosis and management of frontotemporal lobar degeneration. 9th Annual Meeting of Taiwanese Society of Geriatric Psychiatry, 2014 March 16, Chung Shan Medical University, Taichung city, Taiwan.
- 5) 池田 学. 褥瘡の危険因子を作らないための取り組み.(シンポジウム) 「認知症の予防について」 第 15 回日本褥瘡学会学術集会, 2013 年 7 月 19 日 (発表 19 日), 兵庫県神戸市.
- 6) 池田 学. 「若年性認知症を地域で支えるために」 (基調講演) 第 16 回日本老年行動科学会, 2013 年 8 月 31 日, 愛媛県松山市.
- 7) 池田 学. 認知症の病態と治療薬の動向(シンポジウム) 「レビー小体型認知症と前頭側頭葉変性症の病態と治療」 第 23 回日本臨床精神神経薬理学会・第 43 回日本神経精神薬理学会合同年会 2013 年 10 月 24-26 日, 沖縄県宜野湾市.
- 8) Toyoshima Y, Washio M, Arai Y. Factors related to depression among family caregivers of psychiatric patients who used home-visiting nursing services in Japan. The 5th International Conference on Community Health Nursing Research, 2013 March 13-14 (Presentation: March 14), Edinburgh, UK.
- 9) 豊島泰子, 春名誠美, 鷺尾昌一. 精神障がい者を介護する家族の抑うつと訪問看護師の支援内容の検討: 2 つの調査結果から. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013 年 10 月 23-25 日 (発表 23 日), 三重県津市.
- 10) 大浦麻絵, 森 満, 和泉比佐子, 安田誠史, 宮野伊知郎, 鷺尾昌一. 在宅療養者を介護する家族介護者の抑うつ: ベースライン調査の結果より. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 2013 年 10 月 23-25 日 (発表 23 日), 三重県津市.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特記すべきことなし
2. 実用新案登録
特記すべきことなし
3. その他
特記すべきことなし